

いちご病害虫情報第9号(2月)

平成28年2月19日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	2	8	2	11	4	35	20	0	7	総調査ほ場数: 66か所 総調査株数: 1,650株 花調査ほ場数: 66か所 総調査花数: 3,300花 (調査株数 25株 (調査花数 50花)) ※ 年比 = (本年平均値 / 前年値) × 100 ※ アザミウマ類の調査は花調査かつ前年値は過去5年の値
	本年平均値	3.0	12.1	3.0	16.7	6.1	53.0	30.3	0.0	10.6	
	前年値	3.7	9.6	5.7	5.6	7.1	52.3	42.2	0.6	20.6	
	前年比	81.1	126.0	52.6	298.2	85.9	101.3	71.8	0.0	51.5	
	発生程度	前年並	前年並	やや少	多	前年並	前年並	前年並	少	やや少	
株率	発生株数	0	5	0	0	5	291	49	0	8	○ 今月の病害虫発生状況 ○ ・ 灰色かび病の発生は前年並です。 ・ 萎黄病が見られるほ場が増加しています。 ・ アザミウマ類の発生が見られるほ場が増加しています。 ・ ハダニ類の発生は前年並ですが、甚発生ほ場が増加しています。
	本年平均値	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	17.6	3.0	0.0	0.2	
	前年値	0.0	0.4	0.4	0.0	0.7	18.7	9.5	0.0	1.4	
	前年比	-	75.0	0.0	-	42.9	94.1	31.6	-	14.3	
発生程度	少	前年並	少	少	やや少	前年並	やや少	少	少		
概評	やや少	前年並	やや少	前年並	前年並	前年並	前年並	前年並	少	やや少	

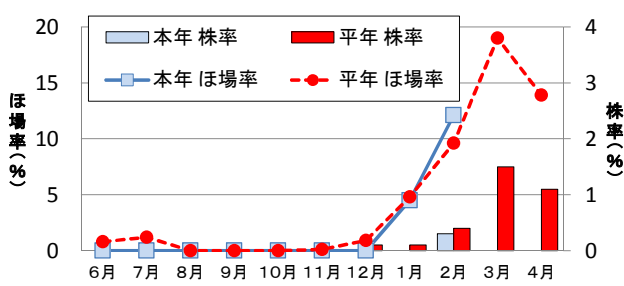


図1 灰色かび病発生ほ場率・株率

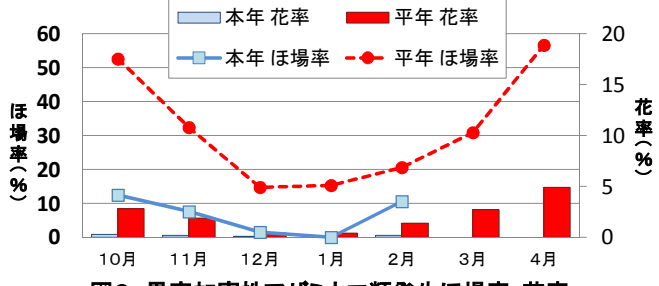


図2 果実加害性アザミウマ類発生ほ場率・花率

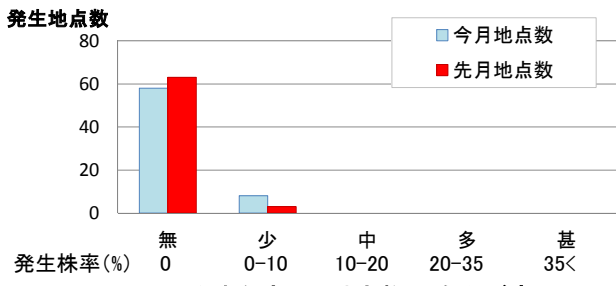


図3 発生程度別の地点数(灰色かび病)

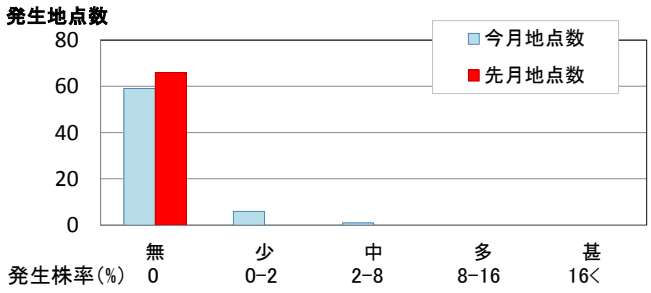


図4 発生程度別の地点数(アザミウマ類)

○灰色かび病対策

- ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
- ・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・発生状況に応じてセイビアーフロアブル20やピクシオDF等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ＊「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果①、②」を当センターホームページに掲載中。

○アザミウマ類対策

- ・発生が見られたら、低密度のうちにカウンター乳剤やマッチ乳剤[カキイロザミウマ]等のIGR剤で増殖を防止する。
- ・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなるおそれがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する(天敵やミツバチへの影響があるので注意する)。
- ＊ 秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では注意が必要である。
- ＊ 「植物防疫ニュース(速報No.14)」、「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果(続報)」を当センターホームページに掲載中。



写真 アザミウマ類による被害果実

○今月の技術情報(技術指導班)○(2月)

- ・現在、ハダニ類、アブラムシ類などの発生状況は前年並ですが、気温の上昇とともに一気に増加することが懸念されます。また、先月に比べ、灰色かび病の発生が増加傾向にあり、今後、曇雨天日が増えることも予想されます。こまめな観察を行い、予防対策を心掛けましょう。
- ・また、アザミウマ類も先月の調査に比べると増加傾向にあります。暖秋、暖冬の影響で年内からハウス内への飛び込みがあり、そのまま越冬している可能性があります。いちごの株や花をよく観察し、害虫の早期発見により、被害の軽減に努めて下さい。
- ・一方、これからの時期は、温度の上昇による果実の傷みなど、品質低下にも注意が必要です。換気方法を工夫するとともに、下葉をかくなどして、病害等が発生しにくい環境づくりに努めましょう。循環扇を積極的に活用したり、かん水は一度に多量に行うことは控え、間隔を短く、1回当たりの量を少なくして調節しましょう。